

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号  
特開2003-108280  
(P2003-108280A)

(43)公開日 平成15年4月11日(2003.4.11)

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テ-マ-ト*(参考)
G 0 6 F 3/00	6 5 4	G 0 6 F 3/00	6 5 4 B 5 C 0 2 2
H 0 4 M 1/247		H 0 4 M 1/247	5 C 0 2 5
H 0 4 N 5/225		H 0 4 N 5/225	F 5 E 5 0 1
5/44		5/44	A 5 K 0 2 7
			H

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 19 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願2001-304816(P2001-304816)

(22)出願日 平成13年10月1日(2001.10.1)

(71)出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(72)発明者 山寺 仁

東京都国分寺市東恋ヶ窪一丁目280番地

株式会社日立製作所デザイン本部内

(72)発明者 小嶋 聡子

東京都国分寺市東恋ヶ窪一丁目280番地

株式会社日立製作所デザイン本部内

(74)代理人 100075096

弁理士 作田 康夫

最終頁に続く

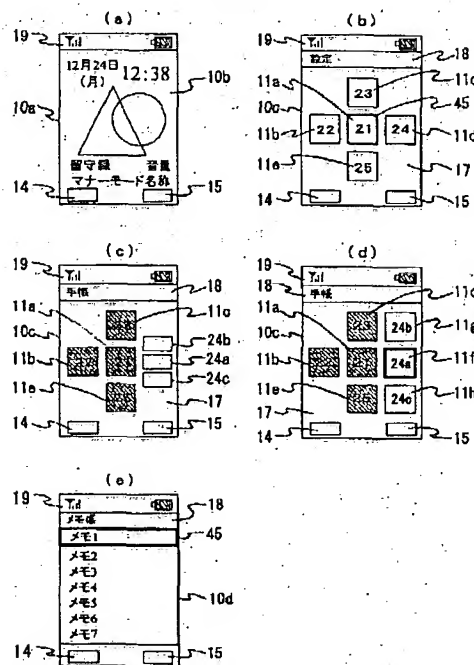
(54)【発明の名称】 画面表示方法

(57)【要約】

【課題】画面表示方法において、操作性を高めることができ、かつメニュー項目の選択状況の把握や確認を容易に行うことができるようにする。

【解決手段】メニュー項目選択画面10cに第1階層の基準となる複数の第1のホームポジションアイコン11a、11b、11c、11d、11eを表示し、表示された第1のホームポジションアイコン11a~11eの選択により、第2階層の基準となる複数の第2のホームポジションアイコン11f、11g、11hを、選択された第1のホームポジションと交差する方向に、第1のホームポジションアイコン11a、11b、11c、11d、11eとともにメニュー項目選択画面10cに表示し、表示された第2のホームポジションアイコン11f、11g、11hの選択により、第3階層のメニューをサブメニュー画面10dに表示する。

図5



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】第1表示画面に複数のメニュー項目アイコンを表示し、表示された複数のメニュー項目アイコンから任意のメニュー項目アイコンを選択し、選択された任意のメニュー項目に設定されたサブメニュー項目を第2表示画面にアイコンで表示する画面表示方法において、前記第1表示画面に第1階層の基準となる複数の第1のホームポジションアイコンを表示し、表示された前記第1のホームポジションアイコンの選択により、第2階層の基準となる複数の第2のホームポジションアイコンを、前記選択された第1のホームポジションアイコンと交差する方向に、前記選択された第1のホームポジションアイコンとともに前記第1表示画面に表示し、表示された前記第2のホームポジションアイコンの選択により、選択された前記第2のホームポジションに設定された第3階層のメニューを第2表示画面に表示することを特徴とする画面表示方法。

【請求項2】第1表示画面に複数のメニュー項目アイコンを表示し、表示された複数のメニュー項目アイコンから任意のメニュー項目アイコンを選択し、選択された任意のメニュー項目に設定されたサブメニュー項目を第2表示画面にアイコンで表示する画面表示方法において、前記第1表示画面に第1階層の基準となる複数の第1のホームポジションアイコンを表示し、表示された前記第1のホームポジションアイコンの選択により、第2階層の基準となる複数の第2のホームポジションアイコンを、前記選択された第1のホームポジションと交差する方向に、前記選択された第1のホームポジションアイコンとともに前記第1表示画面に表示し、かつ選択されなかった前記第1のホームポジションアイコンを前記第1画面上で薄く表示し、表示された前記第2のホームポジションアイコンの選択により、選択された前記第2のホームポジションに設定された第3階層のメニューを第2表示画面に表示することを特徴とする画面表示方法。

【請求項3】第1表示画面に複数のメニュー項目アイコンを表示し、表示された複数のメニュー項目アイコンから任意のメニュー項目アイコンを選択し、選択された任意のメニュー項目に設定されたサブメニュー項目を第2表示画面にアイコンで表示する画面表示方法において、少なくとも設定機能を有するメニュー項目が設定された第1階層の基準となる複数の第1のホームポジションアイコンを、前記設定機能を有するホームポジションアイコンが前記第1表示画面の中心に位置するように表示し、前記設定機能を有するホームポジションアイコンの周囲に、他のホームポジションアイコンを表示することを特徴とする画面表示方法。

【請求項4】請求項1または請求項2に記載の画面表示方法において、前記第1のホームポジションアイコンの選択により、第

2階層の複数のメニューを前記第2のホームポジションアイコンが表示される位置に所定時間小さなアイコンで表示し、所定時間の経過後に前記第2階層の基準となる複数の前記第2のホームポジションアイコンを表示することを特徴とする画面表示方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、携帯電話機やPDA端末などの情報機器に設けられた表示部、特に表示部の画面表示方法に関する。

## 【0002】

【従来の技術】携帯電話機やPDA端末などの情報機器においては、メール通信やインターネット通信、スケジュール管理などの各種機能が付加され、非常に便利なものとなってきている。かかる情報機器には、表示部と操作部とが設けられ、表示部の表示画面に表示されたメニュー項目を操作部により選択、決定して、各種機能を実行させるようになってきている。このような従来例として、図24（従来例1）および図25（従来例2）で示すようなものが知られている。従来例1においては、図24（a）で示すように、表示部230の表示画面230aにメニュー項目アイコン231a、231b、231c、231d、231eを表示したメニュー画面が表示される。このメニュー画面が表示された状態で、図示しない操作部を操作することにより、図24（b）で示すようにカーソル232が移動してメニュー項目が選択される。そして、メニュー項目を選択したら、さらに操作部を操作することにより、図24（c）で示すように、表示画面230aにサブメニュー項目が表示されるようになってきている。また、従来例2においては、図25

（a）で示すように、表示部230の表示画面230aにメニュー項目アイコン233a、233b、233c、233d、233e、233f、233g、233h、233kを3行3列で表示したメニュー画面が表示される。このメニュー画面が表示された状態で、図示しない操作部を操作することにより、図25（b）で示すようにカーソル232が移動してメニュー項目が選択される。そして、メニュー項目を選択したら、さらに操作部を操作することにより、図25（c）で示すように、表示画面230aにサブメニュー項目がアイコン234a、234b、234c、234d、234e、234f、234g、234h、234kを3行3列で表示されるようになってきている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】上述した従来例1および従来例2において、例えば、メニュー項目を決定し、当該メニュー項目のサブメニュー項目が表示された状態から、他のメニュー項目を選択するような場合、一旦、図24（a）あるいは図25（a）で示すメニュー画面に戻ってからメニュー項目を選択しなければならず、操

作性に対する配慮がなされていなかった。

【0004】また、従来例1および従来例2においては、第1階層となるメニュー項目と第2階層となるサブメニュー項目とが、それぞれ別々の画面に表示されるため、第1階層から第2階層にかけての経路（履歴）が表示されない。このため、メニュー項目の選択状況が把握できず、選択内容の確認に対する配慮がなされていなかった。

【0005】本発明の目的は、上記問題点を解決し、操作性を高めることができる画面表示方法を提供することにある。

【0006】また、本発明の別の目的は、上記問題点を解決し、メニュー項目の選択状況を容易に把握し、確認することができる画面表示方法を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明は、第1表示画面に第1階層の基準となる複数の第1のホームポジションアイコンを表示し、表示された第1のホームポジションアイコンの選択により、第2階層の基準となる複数の第2のホームポジションアイコンを、選択された第1のホームポジションと交差する方向に、第1のホームポジションアイコンとともに前記第1表示画面に表示し、表示された第2のホームポジションアイコンの選択により、第3階層のメニューを第2表示画面に表示するものである。

【0008】また、上記目的を達成するために、本発明は、第2階層の基準となる複数の第2のホームポジションアイコンを、選択された第1のホームポジションと交差する方向に、前記選択されていない第1のホームポジションアイコンとともに第1表示画面に表示され、かつ選択されなかった第1のホームポジションアイコンを薄く表示するものである。

【0009】さらに、本発明は、少なくとも設定機能を有するメニュー項目が設定された第1階層の基準となる複数の第1のホームポジションアイコンを、設定機能を有するホームポジションアイコンが第1表示画面の中心に位置するように表示し、ホームポジションアイコンの周囲に、他のホームポジションアイコンを表示するものである。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態を図面により説明する。なお、各図における同一符号は、同一物または相当物を示すものであるため、重複する説明を省略する。

【0011】（第1の実施形態）先ず、図1から図5を参照して、本発明に係るメニュー画面および表示方法を、携帯電話機に適用したときの実施形態を説明する。

【0012】図1は本発明の実施形態に係る携帯電話機の外観図である。図1において、携帯電話機は、ダイヤルキー2（ハッチングで示す12個のキー）、左ソフト

キー3a、右ソフトキー3b、カーソルキー4、メールキー5、ウェブキー6、発信キー7、終話キー8、クリアキー9、表示部10、表示画面10a、スピーカ11、マイク12、GPSアンテナ13、アンテナ13aを備えている。

【0013】ダイヤルキー2は、各キーに数字やアルファベットが割り当てられ、番号入力や文字入力等を行うのに使用される。左ソフトキー3aおよび右ソフトキー3bは、主に電話帳の呼び出しや伝言メモ、音声メモ等の各種機能を実行させるのに使用される。カーソルキー4は、上下左右の四方向へ動かすことができ、表示画面10aに表示されたメニュー項目の選択等に使用される。また、カーソルキー4は、押しボタン機能を備えており、メニュー項目の選択後にカーソルキー4を押すことによりメニュー項目が決定されるようになっている。

【0014】メールキー5は、メール受信時あるいはメール送信時に使用されるものであり、ウェブキー6は、インターネット等のウェブサイトへ接続するときに使用されるものである。

【0015】発信キー7は、電話やメールの発信時に使用され、終話キー8は、電話の終了や表示画面10aの表示内容を待機画面に戻す時等に使用される。クリアキー9は、文字入力時における文字の削除や、表示画面10aをメニュー項目選択画面から待機画面に戻す時等に使用される。

【0016】表示画面10aには、メニュー項目アイコン11a、11b、11c、11d、11eや左ソフトキー3aの機能を表示するアイコン14、右ソフトキー3bの機能を表示するアイコン15等が表示される第1表示領域17と、選択したメニュー項目を表示する第2表示領域18と、電波の受信状態やバッテリーの充電状態等を表示する第3表示領域19とを備えている（図5参照）。

【0017】図2は本発明の実施形態に係る携帯電話機のメニュー構造の一例を示す図である。図2において、本実施の形態に係る携帯電話機におけるメニュー項目は、携帯電話機の各種設定を行う設定メニュー21と、メール機能を起動させるメールメニュー22と、ネットワークに接続するネットワークメニュー23と、電話番号やメールアドレス、メモ等の登録や呼び出しを行う手帳メニュー24と、各種アプリケーションやデータの保存、呼び出しを行うフォルダメニュー25とから構成され、これらのメニュー項目が第1階層（大分類）を構成している。また、第1階層を構成する各メニュー項目にはそれぞれサブメニューが設けられており、これらのサブメニューが第2階層（小分類）を構成している。

【0018】メールメニュー22には、Eメールを行うためのサブメニュー22aと、ショートメッセージ（ショートメール）を送信するためのサブメニュー22bと、チャットを行うためのサブメニュー22cが設けら

れている。

【0019】ネットワークメニュー23には、インターネット等のウェブサイトへ接続するサブメニュー23aと、位置情報取の取得等を行うナビゲーション機能に接続するサブメニュー23bと、あらかじめ使用者により登録された使用頻度の高いウェブサイトへダイレクトに接続するサブメニュー23cが設けられている。

【0020】手帳メニュー24には、電話番号やメールアドレス等の登録や呼び出しを行うサブメニュー24aと、メモ帳の書き込みや呼び出しを行うサブメニュー24bと、タスク（スケジュール等）の登録や呼び出しを行うサブメニュー24cが設けられている。

【0021】フォルダメニュー25には、各種アプリケーション、例えば、携帯電話機にダウンロードしたゲーム等の呼び出しを行うサブメニュー25aと、各種データ、例えば、待機画面で使用する壁紙や着信音等を呼び出すサブメニュー25bと、使用者により登録された使用頻度の高い機能へ接続するサブメニュー25cが設けられている。

【0022】図3は本発明の実施形態に係る携帯電話機のハードウェア構成を示すブロック図である。図3において、携帯電話機は、バッテリー43から各部に電力が供給され、制御器30の制御のもとに入力器33からの入力情報に基づいて所定の動作を行う。なお、入力器33は、各機能キーやダイヤルキー3、カーソルキー4に相当するものであり、表示器32は表示部10および表示画面10aに相当するものである。

【0023】入力器33の操作によって通話が行われるときには、マイク12から入力された音声信号が音声CODEC（符号化／復号器）36によって符号化され、さらに、変復調器38で変調されて無線器39に供給され、アンテナ13aから無線送信される。また、アンテナ13aからの受信信号は、無線器39を介して変復調器38に供給され、変復調器38で復調された後、音声CODEC36で音声信号に復号されてスピーカー11から音声出力される。通話元からの着信があると、制御器30は、無音着信報知器31を動作させ、例えば、バイブレータを稼働させてユーザーに着信があったことを知らせる。もちろん、スピーカー11から着信音を出力させるようにすることもできる。

【0024】入力器33のウェブキー6やカーソルキー4を操作してインターネットを介したウェブサービスを要求した場合、その要求が無線器39からアンテナ13aを介して送信され、所定のサーバーとの接続が確立することにより、このサーバーから所定の情報が受信され、変復調器38で復調されて表示器32の表示画面10aに表示され、必要に応じて記憶器34に記憶させることができる。

【0025】アンテナ13aを介してメールを受信すると、変復調器38で復調されて記憶器34に記憶され、

制御器30は表示器32の表示画面10aにメールアイコン（図示省略）を表示し、メールを受信したことを知らせるようにしている。メールの受信を確認したら、入力器33のメールキー5あるいはカーソルキー4を操作して記憶器34から受信したメールを読み出し、表示器32の表示画面10aに受信メールを表示させることができる。メールの送信時には、入力器33のメールキー5あるいはカーソルキー4を操作することでメール作成メニューを開き、入力器33を操作してメール本文を入力すると、変復調器38で変調された後、無線器39からアンテナ13aを介して無線送信される。

【0026】GPSアンテナ13を使用して位置表示を行う場合、入力器33のカーソルキー4を操作して、位置表示を行うメニューを開き、現在地情報や目的地情報を入力すると、制御器30は位置検出器35および無線器39、GPSアンテナ13を介して現在地情報や目的地情報を測位し、アンテナ13aを介して送信する。送信された現在地情報や目的地情報は、例えば、地図情報を有するサーバーが受信し、サーバーは、受信した現在地情報や目的地情報と地図情報をマッチングさせて、現在地と目的地の相対位置データや現在地を示す地図データを送信する。送信された相対位置データや地図データは、アンテナ13aおよび無線器39、制御器30を介して受信し、受信された相対位置データや地図データは、表示器32の表示画面10aに表示されるようになっている。なお、受信した相対位置データや地図データは、必要に応じて記憶器34に記憶することができるようになっている。

【0027】制御器30は、時計40から現在の日時情報を取り込み、表示器32の表示画面10aに現在の日時が表示され、表示画面10は、待機画面10aとなる（図5参照）。また、制御器30は、電波の受信状態やバッテリー43の充電残量を常時監視しており、電波の受信状態やバッテリー43の充電残量を状態に応じて表示画面10aに表示するようになっている。

【0028】次に、図4から図6を参照して、メニュー項目の選択時における操作および画面遷移について説明する。

【0029】図4は本発明の実施形態に係る操作フロー図、図5および図6は本発明の形態に係る表示画面の画面遷移の一例を示す図である。図4および図5において、表示画面10aに図5（a）で示す待機画面10bが表示された状態から、カーソルキー4を押すと（ステップ300）、表示画面10aの表示が図5（b）で示すように、第1表示画面であるメニュー項目選択画面10cに切り替わるとともに（ステップ301）、第1階層の基準となる第1のホームポジションアイコンが表示される。本実施の形態では、第1のホームポジションアイコンとして、アイコン11aを囲むようにアイコン11b、11c、11d、11eがメニュー項目選択画面

10cに表示され、中央に配置されたアイコン11aにカーソル45が当てられるようになっている。また、本実施の形態では、アイコン11aに設定メニュー21、アイコン11bにメールメニュー22、アイコン11cにネットワークメニュー23、アイコン11dに手帳メニュー24、アイコン11eにフォルダーメニュー25が割り当てられた状態を示している。

【0030】メニュー項目選択画面10cが表示された状態から、カーソルキー4を上下あるいは左右の何れかの方向へ倒すことにより（ステップ302）、カーソル45がアイコン11b、11c、11d、11eの何れかに移動してメニュー項目が選択され、選択されたメニュー項目に設定されたサブメニュー項目、すなわち、第2階層の基準となる第2のホームポジションアイコンが、カーソルキー4を倒した方向と直交する方向に表示されるようになっている（ステップ303）。本実施の形態では、図5（c）で示すように、カーソルキー4を右方向へ倒し、手帳メニュー24が割り当てられたアイコン11dを選択した状態を示しており、アイコン11d（手帳メニュー24）を選択することにより、設定されたサブメニュー項目が所定時間小さく表示された後、図5（d）で示すように、メニュー項目選択画面10cに第2のホームポジションアイコンとして、アイコン11f、11g、11hが表示され、アイコン11f、11g、11hに割り当てられたサブメニュー項目が、カーソルキー4を倒した方向（右方向）と直交する方向（上下方向）に表示されるようになっている。本実施の形態では、アイコン11f、11g、11hの一例として、手帳メニュー24に設けられたサブメニュー項目24a、24b、24cが表示された状態を示している。また、本実施の形態では、アイコン11dの選択によりアイコン11f、11g、11hが表示されると共に、選択されなかったアイコン11a、11b、11c、11eは、薄く表示されるようになっている（ステップ304）。なお、図5においては、アイコン11a、11b、11c、11eが薄く表示された状態を、ハッチングで示す。

【0031】アイコン11f、11g、11hが表示された状態で、画面を一つ前の状態、例えば、図5（d）で示す状態から図5（b）で示す状態に戻る必要がある場合、カーソルキー4を倒した方向（右方向）と反対側の方向（左方向）へ倒すことで（ステップ305）、一つ前の画面、すなわち、図5（d）で示す状態から図5（b）で示す状態に戻ることができるようになっている。この場合、メニュー項目選択画面10cに表示された第1のホームポジションアイコンから、所望のメニュー項目を再度選択することになる。

【0032】ステップ305において、カーソルキー4を戻す必要がなければ、アイコン11f、11g、11hで示されたサブメニュー項目24a、24b、24c

の何れかをカーソルキー4で選択し（ステップ306）、カーソルキー4を押下することにより（ステップ307）、第2表示画面であるサブメニュー画面10dが表示され、選択されたサブメニュー項目のサブメニューが表示される（ステップ308）。本実施の形態では、選択したサブメニュー項目の一例として、図5（e）で示すように、メモ帳24aを選択した状態を示している。

【0033】そして、選択されたサブメニュー項目の内容に対し、ダイヤルキー3やカーソルキー4等により所望の操作を行い（ステップ309）、操作が完了したら（ステップ301）、終話キー8を操作することにより（ステップ311）、待機画面10bへ戻るようになっている。本実施の形態では、メモ帳24aのサブメニューに対する操作、たとえば、メモの記入を行い、メモの記入が終了したら、終話キー8を押下することで、待機画面10bへ戻すようにしている。

【0034】次に、図6を参照して、表示画面10aにおける画面遷移の一例を説明する。図6は、メニュー項目選択画面10cが表示された状態で、カーソルキー4を上方向へ倒し、ネットワークメニュー23が割り当てられたアイコン11cを選択した状態を示している。図6において、アイコン11c（ネットワークメニュー23）を選択することにより、図6（a）で示すように、設定されたサブメニュー項目が所定時間だけ小さく表示され、所定時間の経過後、図6（b）で示すように、メニュー項目選択画面10cに第2のホームポジションアイコンとして、アイコン11i、11j、11kが表示され、アイコン11i、11j、11kに割り当てられたサブメニュー項目が、カーソルキー4を倒した方向（右方向）と直交する方向（上下方向）に表示され、カーソル45がアイコン11iに表示されるようになっている。なお、図6においては、表示されるサブメニュー項目の一例として、アイコン11iにお気に入りメニュー、アイコン11jにインターネットメニュー、アイコン11kにナビゲーションメニューが、それぞれ割り当てられている。

【0035】図6（b）で示す状態から、カーソルキー4を右方向へ倒すことにより、図6（c）で示すようにカーソル45がアイコン11kに移動し、ナビゲーションメニュー23cが選択された状態となる。この状態で、カーソルキー4を押下することにより、図6（d）で示すように、サブメニュー画面10dに切り替わり、ナビゲーションメニュー23cに設定されたサブメニューが表示されるようになっている。

【0036】本実施の形態においては、ナビゲーションメニュー23cに設定されたサブメニューを選択することで、GPSアンテナ13や位置検出器35等により、位置情報の取得や位置情報に基づく地図情報の表示、使用者の位置と目的地との相対位置の表示等を行うことが

できるようになっている。なお、ナビゲーションメニュー23cに関する詳細な説明については、説明を省略する。

【0037】そして、ナビゲーションメニューに対する操作が完了したら、終話キー8を押下することにより、待機画面10b(図5参照)へ戻すようにしている。

【0038】なお、上述した実施の形態においては、カーソルキー4を右方向あるいは上方向に倒した状態における画面遷移について説明したが、カーソルキー4左方向あるいは下方向に倒した場合においても、上述した実施の形態と同様、第2のホームポジションアイコン、すなわち、サブメニュー項目がカーソルキー4を倒した方向と直交する方向に表示されるようになっているので、詳細な説明は省略する。

【0039】以上のように、本実施の形態によれば、制御器30が、メニュー表示の選択にともなって、第1階層の基準となる第1のホームポジションアイコンを選択表示画面の中央に表示するとともに、その周囲(上下、左右)に第2階層の基準となる第2のホームポジションアイコンをメニュー画面として表示する。即ち、この実施の形態では、横3行で縦3列からなる最大9個のアイコンが表示可能であるので、第2階層のホームポジションアイコンとして4個表示することができる。そして、この第2のホームポジションアイコンの選択にともなって、前記第1のホームポジションアイコンに対する当該選択された第2のホームポジションアイコンの配置方向と交差する方向に第2階層のサブメニューアイコンを表示する。即ち、本実施の形態によれば、例えば、第1のホームポジションアイコンの右側または左側の第2のホームポジションアイコンが選択されれば、この第2のホームポジションアイコンを中心に、その上下方向にサブメニューアイコンを展開表示することが可能である。また同様に、第1のホームポジションアイコンの上方または下方の第2のホームポジションアイコンが選択されれば、この第2のホームポジションアイコンを中心に、その左右方向にサブメニューアイコンを展開表示することが可能である。

【0040】したがって、この実施の形態によれば、最大9個のアイコンを表示可能な選択表示画面の4隅に表示されるサブメニューアイコンを、選択された第2のホームポジションアイコンの違い(選択される経路の違い)で異なった機能のサブメニューアイコンを表示させることができる。これにより、携帯電話や小型のPDAが備える狭い選択表示画面に多様なサブメニューアイコンを表示させることができる。この実施の形態では、最大9個のアイコンの実施形態で説明しているが、表示されるアイコンの数が増えると、より効果的である。

【0041】また、この実施の形態では、前記第1のホームポジションの選択により、他の第1のホームポジションアイコンを薄く表示するので、選択表示画面には選

択された第1のホームポジションアイコンと第2のホームポジションアイコンが明確に表示されるので、選択された経緯を操作者に知らせることができる。

【0042】更に、この実施の形態では、前記第1、第2のホームポジションアイコンの有効活用を図るために、画面の中央に表示された第1のホームポジションアイコンを選択すると、各種設定を行う設定画面を表示する機能を持たせている。また、画面の中央に表示された第1のホームポジションアイコンの周囲に配置された他の第1のホームポジションアイコンは、この第1のホームポジションアイコンの選択にともなって表示させるサブメニューアイコンに表示を変化させる。しかし、この第1のホームポジションアイコンの選択にともなって、いきなり、この第2のホームポジションアイコンがサブメニューアイコンに変化すると、選択された経緯がわからず使用者に戸惑いや誤操作を起こすこととなる。従って、この実施の形態では、前記第1のホームポジションアイコンの選択にともなって、サブメニューアイコンが表示される位置(方向)に所定時間小さなアイコンを表示する。これにより、使用者に選択された経緯を認知させると共に、選択表示画面に表示される選択可能な第2のホームポジションアイコン、すなわち、サブメニューアイコンの数を増やすことができる。

【0043】このように、この実施の形態によれば、第1階層のメニュー項目と第2階層のサブメニュー項目とを、一つの画面上に表示することができ、かつカーソルキーの操作のみでメニュー項目の選択、決定を行うことができるので、表示画面の操作性を良好にすることができる。更に、表示画面上に、選択可能な下位階層のメニュー項目を表示して、この下位階層の選択にともなって他の選択されないメニュー項目を非表示として、空いているスペースに当該下位階層のサブメニュー項目を表示するように、順次、下位階層へと展開することができるので、複数の階層で構成される表示画面の操作性を向上することができる。特に、この実施の形態では、各メニュー項目のカテゴリーをカーソルの移動方向と結びつけることができるので、メニュー項目の階層を分かり易く表示することができる。

【0044】次に、図7を参照して、表示画面10aにおける画面遷移の他の一例を説明する。なお、操作フローについては、一部を除いて図4と同様であるため、詳細な説明は省略する。図7は、メニュー項目が3階層以上設定されている場合の画面遷移図である。この実施の形態のように最大9個のアイコンしか表示できない場合、3階層以上のメニュー項目を表示するために、前記第1のホームポジションアイコンを選択表示画面の中心位置からずらして、以後の第2のホームポジションアイコンを展開表示する。以下、この実施の形態を更に詳細に説明する。図7において、待機画面10b(図5参照)が表示された状態からカーソルキー4を押下する



と、表示画面10aの表示が、図7(a)で示すように、第1表示画面であるメニュー項目選択画面10cに切り替わり、カーソル45がアイコン11aに当てられる。

【0045】メニュー項目選択画面10cが表示された状態から、カーソルキー4を上下あるいは左右の何れかの方向へ倒すことにより、カーソル45がアイコン11b、11c、11d、11eの何れか移動してメニュー項目が選択され、選択されたメニュー項目に設定された第2階層を構成するサブメニュー項目が、カーソルキー4を倒した方向と直交する方向に表示されるようになっている(ステップ305とステップ306の間で実行されるフロー)。本実施の形態では、図7(b)で示すように、カーソルキー4を右方向へ倒してアイコン11d(メニュー項目24)を選択し、メニュー項目24に設定されている第2階層を構成するサブメニュー項目26、27が、カーソルキー4を倒した方向と直交する方向(上下方向)にアイコン11m、11nとして表示されるようになっている。また、図7(b)において、選択されなかったアイコン11b、11d、11eは薄く表示されるようになるが(図中、破線で示す)、カーソル45がアイコン11cに移動する前に存在した位置、すなわち、図中のハッチングで示すように、アイコン11aはサブメニュー項目選択画面10dにそのまま表示されるようになっている(ステップ305とステップ306の間で実行されるフロー)。これにより、カーソル45の移動履歴がわかるようになっている。

【0046】図7(b)で示す状態からカーソル4を下あるいは左右の何れかの方向へ倒すことにより(ステップ305とステップ306の間で実行されるフロー)、第2階層の下位項目で構成された第3階層のサブメニュー項目が、カーソルキー4を倒した方向と直交する方向に表示されるようになっている。本実施の形態では、図7(c)で示すように、カーソルキー4を下方向へ倒してアイコン11n(サブメニュー項目27)を選択することで、アイコン11nが移動し、サブメニュー項目27に設定されている第3階層を構成するサブメニュー項目28、29が、移動したアイコン11nの側方向、すなわち、カーソルキー4を倒した方向と直交する方向(左右方向)にアイコン11p、11qとして表示されるようになっている(ステップ305とステップ306の間で実行されるフロー)。同時に、選択されている第1階層のメニュー項目、例えば、アイコン11aと11dが、サブメニュー項目を示すアイコン11n、11p、11qの表示と重ならないように移動させるとともに、アイコン11a、11d、11n、11p、11qの表示と重なる位置に表示されているアイコン11bと11eをメニュー項目選択画面10cから消すようになっている(ステップ305とステップ306の間で実行されるフロー)。なお、カーソルキー4により選択され

ず、かつアイコン11a、11d、11n、11p、11qの表示と重なる位置に表示されていないアイコン11c、11mは、メニュー項目選択画面10cに薄く表示され、選択されたアイコン11nは、メニュー項目選択画面10cにそのまま表示されるようになっている(ステップ305とステップ306の間で実行されるフロー)。

【0047】そして、表示されたサブメニュー項目27、28、29の何れかを選択し、カーソルキーを押下することにより、選択されたサブメニュー項目の下位項目で構成された第4階層のサブメニューが表示される。なお、サブメニュー項目の表示については、図5および図6で説明した内容と同様であるため、詳細な説明を省略する。

【0048】また、図7(d)は、メニュー項目が4階層設定された状態を示しており、図7(c)で示す状態から、カーソルキー4を左方向に倒し、アイコン11pを選択した状態を示している。図7(d)の状態においては、選択したアイコン11pが上方へ移動し、アイコン11pの上下にアイコン11r、11sが表示されるようになっている(ステップ305とステップ306の間で実行されるフロー)。これと同時に、メニュー項目選択画面10cに薄く表示されていたアイコンが消え、選択されたアイコン11pおよびカーソル45の移動履歴を示すアイコン11a、11d、11nが、第4階層を構成するサブメニュー項目のアイコン11p、11r、11sと重ならないようにサブメニュー項目選択画面10dに表示される(ステップ305とステップ306の間で実行されるフロー)。なお、メニュー項目が4階層構成された場合においても、サブメニューの表示については、図5および図6で説明した内容と同様であるため、詳細な説明を省略する。

【0049】以上のように、本実施の形態によれば、表示画面上にカーソルの移動履歴が表示されるようになるので、選択したサブメニュー項目の属するメニュー項目を容易に確認することができる。

【0050】また、本実施の形態によれば、メニュー項目の決定動作を少なくすることができるので、操作性を良好にすることができる。

【0051】次に、図8および図9を参照して、表示画面10aにおける画面遷移の一例を説明する。なお、操作フローについては、一部を除いて図4と同様であるため、詳細な説明は省略する。図8および図9は、サブメニュー項目を斜めに表示した状態の画面遷移図である。図8において、待機画面10b(図5参照)が表示された状態からカーソルキー4を押下すると、表示画面10aの表示が、図8(a)で示すメニュー項目選択画面10cに切り替わり、カーソル45がアイコン11aに当てられる。同時に、アイコン11bと11d、アイコン11cと11eが、アイコン11aを中心として対角に

表示される。なお、この実施形態においては、カーソルキー４が、上下左右方向および斜め方向、すなわち、カーソルキー４を８方向に倒すことができるようになってい

【0052】図8(a)で示すメニュー項目選択画面10cの状態から、カーソルキー４を右下方向へ倒し、アイコン11dを選択することにより、図8(b)で示すように、アイコン11dが画面の中央に移動し、かつアイコン11dに設定されているサブメニュー項目を示すアイコン11mを、カーソルキー４を倒した方向から十分離れた角度に表示する(ステップ303の内容を変えて実行されるフロー)。同時に、アイコン11dの右斜め上方、アイコン11nがアイコン11dの左斜め下方にそれぞれ表示される。そして、選択されなかったアイコン11b、11c、11eは、メニュー項目選択画面10bから消え、移動履歴を示すアイコン11aが、アイコン11d、11m、11nと共に表示される。

【0053】また、図9は、斜め表示の他の例を示す図であり、図9(a)で示す状態から、カーソルキー４を右下方向へ倒し、アイコン11dを選択することにより、図10で示すように、アイコン11dに設定されているサブメニュー項目を示すアイコン11mがアイコン11dの上方、アイコン11nがアイコン11dの左方にそれぞれ表示される。そして、選択されなかったアイコン11b、11c、11eは、メニュー項目選択画面10cに薄く表示され、移動履歴を示すアイコン11aはそのまま表示される。なお、サブメニュー項目の表示については、図5および図6で説明した内容と同様であるため、詳細な説明を省略する。

【0054】以上のように、本実施の形態によれば、カーソルキーを８方向に倒すことができるようになってい

るので、４方向に比べ、より多くのメニューアイコンを表示することができ、使い勝手を良好にすることができる。

(第2の実施形態)次に、図10から図13を参照して、本発明に係るメニュー画面および表示方法を、AVシステムに適用したときの実施形態を説明する。

【0055】図10は、本発明の実施形態に係るAVシステムの構成図である。図10において、本実施の形態に係るAVシステムは、テレビ60と、ビデオデッキやDVDプレーヤー等の外部接続機器80とから構成され、テレビ60と外部接続機器80は、図示しない信号線を介して接続されている。また、テレビ60は図10(b)で示すテレビ用リモコン61、外部接続機器80は図10(c)で示す外部接続機器用リモコン81により、それぞれ操作するようになっている。本実施の形態では、外部接続機器80の一例としてビデオデッキとした場合について説明する。

【0056】図11は、本発明の実施形態に係るAVシステムのハードウェア構成を示すブロック図であり、

図10(a)がテレビ60のブロック図、図11(b)がビデオデッキ70のブロック図である。

【0057】図11(a)において、テレビ60は、放送等の信号を受信するチューナー62と、受信した信号の入力や、ビデオデッキ80等に映像信号等を出力する入出力部63と、入力された信号を処理する信号処理部64と、処理された信号を表示するテレビ画面等の表示部65と、電源のON/OFF等を行う操作ボタン部66と、リモコン61から送信されたリモコン信号を受信する受信部67と、リモコン信号を制御するリモコン信号コントロール部68と、テレビ60に設定されている各種メニューを記憶するメニュー記憶部69と、テレビ60全体を制御するコントロール部70とから構成されている。

【0058】図12は、本発明の実施形態に係るテレビ60のメニュー記憶部69に記憶されているメニュー構造の一例を示す図である。図12において、テレビ60に記憶されているメニュー項目は、テレビ60の各種設定を行う設定メニュー73と、チャンネルの表示、選択を行うチャンネルメニュー74と、番組表の表示、選択を行う番組表メニュー75と、音量の調節、選択を行う音量メニュー76と、あらかじめ設定したメニュー項目をダイレクトで選択するショートカットメニュー77とから構成され、これらのメニュー項目が第1階層(大分類)を構成している。また、第1階層を構成する各メニュー項目にはそれぞれサブメニューが設けられており、これらのサブメニューが第2階層(小分類)を構成している。

【0059】チャンネルメニュー74には、チャンネルを進めるためのサブメニュー74aと、チャンネルを戻すためのサブメニュー74bと、あらかじめ登録したお気に入りのチャンネルを選択するためのサブメニュー74cが設けられている。

【0060】番組表メニュー75には、番組表を時系列に表示するサブメニュー75aと、スポーツ等のジャンル別に表示するサブメニュー75bと、おすすめの番組を表示するサブメニュー75cが設けられている。

【0061】音量メニュー76には、例えば、主音声や副音声等の音声設定や解除を行うサブメニュー76aと、各種チャンネル、例えば、BS放送やゲーム等のチャンネルに対して最適な音量を設定するサブメニュー76bと、音量調節を行うサブメニュー76cが設けられている。

【0062】ショートカットメニュー77には、例えば、ジャンル別に分けて登録したチャンネルをダイレクトに選択するサブメニュー77aと、例えば、1画面から2画面、2画面から4画面等の画面分割を行うサブメニュー77bと、例えば、テレビ60の画面からビデオデッキ70の画面に切り替えるサブメニュー77cが設けられている。



【0063】図11(b)において、ビデオデッキ80は、放送等の信号を受信するチューナー82と、チューナー82で受信した映像信号や外部からの映像信号等が入力される映像入力部83と、入力された映像信号を処理する信号処理部84と、処理された映像信号やメニュー項目を記録する記録部85と、処理された映像信号を出力する映像出力部86と、再生や早送り等の操作を行う操作ボタン部87と、時間やカウンタ等を表示する表示部88と、リモコン81から送信されたリモコン信号を受信する受信部89と、リモコン信号を制御するリモコン信号コントロール部90と、ビデオデッキ80全体を制御するコントロール部91とから構成されている。図13は、本発明の実施形態に係るビデオデッキ80の記憶部85に記憶されているメニュー構造の一例を示す図である。図13において、ビデオデッキ80に記憶されているメニュー項目は、ビデオデッキ80の各種設定を行う設定メニュー83と、番組の予約を行う予約メニュー84と、番組表の表示、選択を行う番組表メニュー75と、録画された映像を再生する再生メニュー86と、あらかじめ設定したメニュー項目をダイレクトで選択するショートカットメニュー77とから構成され、これらのメニュー項目が第1階層（大分類）を構成している。また、第1階層を構成する各メニュー項目にはそれぞれサブメニューが設けられており、これらのサブメニューが第2階層（小分類）を構成している。

【0064】予約メニュー84には、番組の新規予約を行うためのサブメニュー84aと、予約内容を変更するためのサブメニュー84bと、予約内容を削除するためのサブメニュー84cが設けられている。

【0065】再生メニュー86には、録画された映像を再生するためのサブメニュー86aと、再生している映像よりも後ろに録画されている映像の頭出しを行うためのサブメニュー86bと、再生している映像よりも前に録画されている映像の頭出しを行うためのサブメニュー86cが設けられている。なお、番組表メニュー75およびショートカットメニュー77は、テレビ60のメニュー構造と同様であるため、詳細な説明を省略する。上述したテレビ60及びビデオデッキ80に記憶された第1階層および第2階層のメニューは、テレビ画面にアイコンで表示され、テレビ用リモコン61やビデオデッキ用リモコン81を操作することにより、表示されたアイコンが選択されるとともにメニュー画面が遷移し、目的のメニュー画面がテレビ画面に表示されたら、テレビ用リモコン61やビデオデッキ用リモコン81でメニュー画面を決定する。そして、表示されたメニュー画面に対する操作が完了したら、テレビ用リモコン61やビデオデッキ用リモコン81を操作することにより、テレビ画面あるいは外部接続機器の画面に戻るようになっている。なお、本実施の形態におけるメニュー項目の表示方法およびメニュー画面の遷移は、上述した第1の実施形

態と同様であるため、詳細な説明は省略する。また、本実施の形態では、メニュー構造以外は従来のAVシステムの動作と同様であるため、詳細な説明は省略する。

【0066】以上のように、本実施の形態によれば、メニュー項目の選択や決定を行うための画面を小さく表示することができるので、テレビ画面に表示されているコンテンツの表示を邪魔することなく、メニュー項目の選択、決定を行うことができる。

【0067】また、本実施の形態によれば、リモコンの操作性を損なわずにリモコンを小さくすることができるので、リモコンの構造を簡略化することができるので、（第3の実施形態）次に、図14から図16を参照して、本発明に係るメニュー画面および表示方法を、DVDカメラやビデオカメラ、ハードディスクカメラ等に適用したときの実施形態を説明する。なお、本実施の形態では、一例として、DVDカメラに適用した場合について説明する。

【0068】図14は、本発明の実施形態に係るDVDカメラの使用状態を示す図である。図14において、本実施の形態に係るDVDカメラは、カメラレンズ部101と、ファインダー102、モニター部103、操作部104とを備えている。操作部104は、カーソルキー107と、メニューキー108、ナビゲーションキー109、停止キー110、選択キー111とから構成されている。本実施の形態に係るDVDカメラは、操作部104を構成する各操作キーが集中配置されているため、図13で示すように、各操作キーを親指で操作できるようになっている。

【0069】図15は、本発明の実施形態に係るDVDカメラのハードウェア構成を示すブロック図である。図15において、DVDカメラは、被写体の撮像位置を決定するレンズ部121と、被写体を撮像する撮像素子122と、撮像素子122により撮像された映像信号が入力される映像入力部123と、入力された映像信号を処理する信号処理部124と、処理された映像信号の記録を行うと共に、各種メニュー項目が記録された記録部125と、処理された映像信号を外部機器等に出力する映像出力部126と、DVDカメラの各種操作を行う操作ボタン部127と、信号処理部で処理された映像信号を表示する表示部128と、DVDカメラ全体の動作を制御するコントロール部129とから構成されている。また、図15において、レンズ部121と撮像素子122でカメラレンズ部101を構成し、表示部128はモニター部103を構成し、操作ボタン部127は各操作キーで構成されている。

【0070】図16は、本発明の実施形態に係るDVDカメラの記録部125に記録されたメニュー構造の一例を示す図である。図16において、DVDカメラに記憶されているメニュー項目は、DVDカメラの各種設定を行うための設定メニュー131と、撮影モードの表示、

選択を行うための撮影メニュー132と、撮影した映像信号(ムービー)の編集を行うためのムービー編集メニュー133と、記録、撮影したムービーを再生するための再生メニュー134と、あらかじめ設定したメニュー項目をダイレクトで選択するショートカットメニュー135とから構成され、これらのメニュー項目が第1階層(大分類)を構成している。また、第1階層を構成する各メニュー項目にはそれぞれサブメニューが設けられており、これらのサブメニューが第2階層(小分類)を構成している。

【0071】撮影メニュー132には、動画撮影を開始するためのサブメニュー132aと、頭出し撮影を行うためのサブメニュー132bと、静止画撮影を行うためのサブメニュー132cが設けられている。

【0072】ムービー編集メニュー133には、新規ムービーを編集するためのサブメニュー133aと、編集したムービーを呼び出し、再度編集するムービーを選択するためのサブメニュー133bと、不要なムービーを削除するためのサブメニュー133cが設けられている。

【0073】再生メニュー134には、ムービーを再生するためのサブメニュー134aと、再生している映像よりも後ろに録画されているムービーの頭出しを行うためのサブメニュー134bと、再生している映像よりも前に録画されている映像の頭出しを行うためのサブメニュー134cが設けられている。

【0074】ショートカットメニュー135には、使用頻度の高いメニュー、例えば、編集モードにおけるコマンド等が、サブメニュー135a、135b、135cに設けられている。

【0075】上述したDVDカメラに記憶された第1階層および第2階層のメニューは、モニター部103にアイコンで表示され、操作部106を操作することにより、表示されたアイコンが選択されるとともにモニター部103上でメニュー画面が遷移し、目的のメニュー画面がモニター部103に表示されたら、操作部106でメニュー画面を決定する。そして、表示されたメニュー画面に対する操作が完了したら、操作部106を操作することにより、モニター部103の画面表示が、例えば、撮影可能状態の画面に戻るようになっている。なお、本実施の形態におけるメニュー項目の表示方法およびメニュー画面の遷移は、上述した第1の実施形態と同様であるため、詳細な説明は省略する。

【0076】以上のように、本実施の形態によれば、各操作キーを集中配置しているので、表示画面の操作性を良好にすることができる。また、本実施の形態によれば、カメラを安定して持つことができるので、安定した画面操作を行うことができる。

【0077】(第4の実施形態)次に、図17から図19を参照して、本発明に係るメニュー画面および表示方

法を、PCシステムに適用したときの実施形態を説明する。

【0078】図17は、本発明の実施形態に係るPCシステムの外觀構成図である。図17において、本実施の形態に係るPCシステムは、ディスプレイ141とPC本体142、キーボード143、マウス144とから構成されている。

【0079】図18は、本発明の実施形態に係るPCシステムのハードウェア構成を示すブロック図である。図18において、PCシステムは、キーボード143とマウス144等からなる入力装置151と、外部ネットワークと接続される通信部152と、入力装置151から入力されたデータおよび外部ネットワークからダウンロードしたデータの記憶やメニュー項目が記憶された記憶部153と、入力されたデータやメニュー項目を表示する表示部154と、PCシステム全体の動作を制御するコントロール部とから構成されている。

【0080】図19は、本発明の実施形態に係るPCシステムの記憶部153に記憶されているメニュー構造の一例を示す図である。図19において、PCシステムに記憶されているメニュー項目は、PCシステムの各種設定を行うための設定メニュー155と、インターネット等のウェブサイトへ接続するためのウェブブラウザメニュー156と、入力装置151から入力されたデータや外部ネットワークからダウンロードしたデータの保存、呼び出しを行うためのフォルダーメニュー157と、メールを行うためのメールメニュー158と、あらかじめ設定したメニュー項目をダイレクトで選択するショートカットメニュー159とから構成され、これらのメニュー項目が第1階層(大分類)を構成している。また、第1階層を構成する各メニュー項目にはそれぞれサブメニューが設けられており、これらのサブメニューが第2階層(小分類)を構成している。

【0081】ウェブブラウザメニュー156には、ウェブサイトへ接続するためのサブメニュー156aと、あらかじめ登録した使用頻度の高いウェブサイトへ接続するブックマークの表示、選択を行うサブメニュー156bと、接続したウェブサイトの履歴を表示するためのサブメニュー156cが設けられている。

【0082】フォルダーメニュー157には、ファイル等の保存や呼び出しを行うためのサブメニュー157aと、ウェブサイトからダウンロードした画像データ等の保存や呼び出しを行うためのサブメニュー157bと、ウェブサイトからダウンロードした音楽データ等のおよび保存や呼び出しを行うためのサブメニュー157cが設けられている。

【0083】メールメニュー158には、メールを作成するためのサブメニュー158aと、受信したメールを表示するためのサブメニュー158bと、送信したメールを表示するためのサブメニュー158cが設けられて

いる。

【0084】ショートカットメニュー159には、例えば、メールシステムの起動やブックマークの表示等に代表される使用頻度の高い機能が、サブメニュー159a、159b、159cに設けられている。PCシステムに記憶された第1階層および第2階層の各メニューは、ディスプレイ141の表示画面141aにアイコンで表示され、キーボード143やマウス144を操作することにより、表示されたアイコンが選択されるとともに表示画面141a上でメニュー画面が遷移し、目的のメニュー画面が表示画面141aに表示されたら、でメニュー画面を決定する。そして、表示されたメニュー画面に対する操作が完了したら、キーボード143やマウス144を操作することにより、表示画面141aの表示が、例えば、壁紙が表示された待機状態の画面に戻っている。なお、本実施の形態におけるメニュー項目の表示方法およびメニュー画面の遷移は、上述した第1の実施形態と同様であるため、詳細な説明は省略する。以上のように、本実施の形態によれば、PCの表示画面上にアイコン等で表示された各メニュー項目を、一つの画面にまとめて表示できるので、PCの表示画面を有効に使用することができる。また、本実施の形態に係るメニュー構造は、図20で示すインターネットアプリケーション端末にも適用することができる。図20で示すインターネットアプリケーション端末では、カーソルキー200やタッチパネル画面210を操作することで、PCシステムと同様に、メニュー項目の表示方法およびメニュー画面の遷移を行うことができるようになっている。

(第5の実施形態) 次に、図21から図23を参照して、本発明に係るメニュー画面および表示方法を、PDA端末に適用したときの実施形態を説明する。

【0085】図21は、本発明の実施形態に係るPDA端末の外観構成図である。図21において、本実施の形態に係るPDA端末は、端末本体161と、端末本体161に設けられた表示部162と、カーソルキー163と、左ソフトキー164と、右ソフトキー165とから構成されている。また、PDA端末は、通常、右手に入力用のペン(図示省略)、左手にPDA端末を持ち、入力用のペンにより、スケジュール等が入力されるようになっている。

【0086】図22は、本発明の実施形態に係るPDA端末のハードウェア構成を示すブロック図である。図22において、PDA端末は、カーソルキー163や左ソフトキー164、右ソフトキー165から構成される操作ボタン部181と、表示部162の表示画面162aを構成するタッチパネル部182と、操作ボタン部181およびタッチパネル部182から入力されたデータ等の記憶やメニュー項目が記憶された記憶部183と、入力されたデータや記録されたデータ等を表示画面162

aに表示する表示部184と、PDA端末全体の動作を制御するコントロール部185とから構成されている。

【0087】図23は、本発明の実施形態に係るPDA端末の記憶部183に記憶されているメニュー構造の一例を示す図である。図22において、PDA端末に記憶されているメニュー項目は、PDA端末の各種設定を行うための設定メニュー191と、アドレス帳の登録や呼び出しを行うためのアドレス帳メニュー192と、スケジュールの登録や表示を行うためのスケジューラメニュー193と、メールを行うためのメールメニュー194と、あらかじめ設定したメニュー項目をダイレクトで選択するショートカットメニュー195とから構成され、これらのメニュー項目が第1階層(大分類)を構成している。また、第1階層を構成する各メニュー項目にはそれぞれサブメニューが設けられており、これらのサブメニューが第2階層(小分類)を構成している。

【0088】アドレス帳メニュー192には、住所や電話番号等を登録するためのサブメニュー192aと、アドレス帳を検索するためのサブメニュー192bと、アドレス帳をカスタマイズするためのサブメニュー192cが設けられている。

【0089】スケジューラメニュー193には、日程等を登録するためのサブメニュー193aと、スケジュールを表示するためのサブメニュー193bと、スケジュールの検索を行うためのサブメニュー193cが設けられている。

【0090】ショートカットメニュー195には、例えば、アドレス帳やスケジューラの登録メニュー、メール作成メニュー等に代表される使用頻度の高い機能へダイレクトで接続するメニューが、それぞれのサブメニュー195a、195b、195cに設けられている。なお、メールメニュー194については、上述したPCシステムと同様のため、詳細な説明を省略する。PDA端末に記憶された第1階層および第2階層の各メニューは、表示部162の表示画面162aにアイコンで表示され、カーソルキー163や左ソフトキー164、右ソフトキー165を操作することにより、表示されたアイコンが選択されるとともに、表示画面162a上でメニュー画面が遷移し、目的のメニュー画面が表示画面162aに表示されたら、カーソルキー163でメニュー画面を決定する。そして、表示されたメニュー画面に対する操作が完了したら、カーソルキー163や左ソフトキー164、右ソフトキー165を操作することにより、表示画面162aの表示が、例えば、待機状態の画面に戻っている。なお、本実施の形態におけるメニュー項目の表示方法およびメニュー画面の遷移は、上述した第1の実施形態と同様であるため、詳細な説明は省略する。

【0091】以上のように、本実施の形態では、PDA端末を片手で操作することができるので、カーソルキー

やソフトキーから手を放すことなくメニュー項目を選択、決定することができ、表示画面の操作性を良好にすることができる。

【0092】

【発明の効果】以上のように、本発明によれば、限られた表示画面の中で数多くのメニュー項目を表示することができ、かつ一つの操作キーによりメニュー項目を選択することができるので、表示画面の使い勝手や操作性を良好にすることができる。

【0093】また、本発明によれば、画面の戻し動作を一つの操作キーで行うことができるので、メニュー項目の選択を簡単に行うことができる。

【0094】また、本発明によれば、表示画面上に操作履歴が残るので、メニュー項目の階層を容易に確認できるとともに、自分が選択しているメニュー項目を見失わなくすることができる。

【0095】また、本発明によれば、各メニュー項目のカテゴリーをカーソルの移動方向と結びつけることができるので、カテゴリーを覚えやすくすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態に係る携帯電話機の外觀図である。

【図2】本発明の実施形態に係る携帯電話機のメニュー構造の一例を示す図である。

【図3】図3は本発明の実施形態に係る携帯電話機のハードウェア構成を示すブロック図である。

【図4】図4は本発明の実施形態に係る操作フロー図である。

【図5】図5は本発明の実施形態に係る表示画面の画面遷移の一例を示す図である。

【図6】図6は本発明の実施形態に係る表示画面の画面遷移の一例を示す図である。

【図7】図7は本発明の実施形態に係る表示画面の画面遷移の一例を示す図である。

【図8】図8は本発明の実施形態に係る表示画面の画面遷移の一例を示す図である。

【図9】図9は本発明の実施形態に係る表示画面の画面遷移の一例を示す図である。

【図10】図10は本発明の実施形態に係るAVシステムの構成図である。

【図11】図11は本発明の実施形態に係るAVシステムのハードウェア構成を示すブロック図である。

【図12】図12は本発明の実施形態に係るテレビのメニュー構造の一例を示す図である。

【図13】図13は本発明の実施形態に係るビデオデッキのメニュー構造の一例を示す図である。

【図14】図14は本発明の実施形態に係るDVDカメラの使用状態を示す図である。

【図15】図15は本発明の実施形態に係るDVDカメラのハードウェア構成を示すブロック図である。

【図16】図16は本発明の実施形態に係るDVDカメラのメニュー構造の一例を示す図である。

【図17】図17は本発明の実施形態に係るPCシステムの外觀構成図である。

【図18】図18は本発明の実施形態に係るPCシステムのハードウェア構成を示すブロック図である。

【図19】図19は本発明の実施形態に係るPCシステムのメニュー構造の一例を示す図である。

【図20】図20は本発明の実施形態に係るインターネットアプライアンス端末の外觀構成図である。

【図21】図21は本発明の実施形態に係るPDA端末の外觀構成図である。

【図22】図22は本発明の実施形態に係るPDA端末のハードウェア構成を示すブロック図である。

【図23】図23は本発明の実施形態に係るPDA端末のメニュー構造の一例を示す図である。

【図24】従来例を示す図である。

【図25】従来例を示す図である。

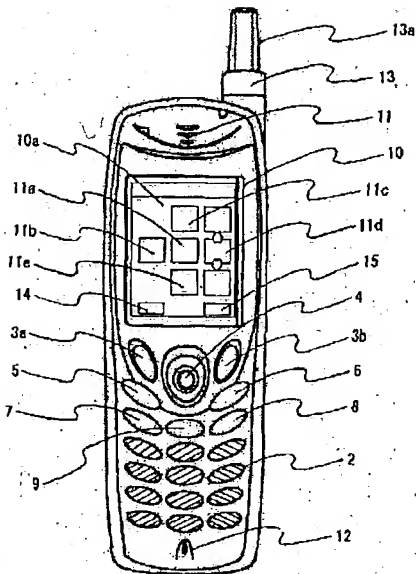
【符号の説明】

- 2 ダイヤルキー
- 3a 左ソフトキー
- 3b 右ソフトキー
- 4 カーソルキー
- 5 メールキー
- 6 ウェブキー
- 7 発信キー
- 8 終話キー
- 9 クリアキー
- 10 表示部
- 10a 表示画面
- 10b 待機画面
- 10c メニュー項目選択画面
- 10d サブメニュー画面
- 11 スピーカー
- 11a~11s アイコン
- 12 マイク
- 13 GPSアンテナ
- 13a アンテナ
- 14, 15 アイコン
- 17 第1表示領域
- 18 第2表示領域
- 19 第3表示領域
- 21 設定メニュー
- 22 メールメニュー
- 23 ネットワークメニュー
- 23a~23c サブメニュー項目
- 24 手帳メニュー
- 24a~24c サブメニュー項目
- 25 フォルダメニュー
- 26~29 サブメニュー項目

45 カーソル。

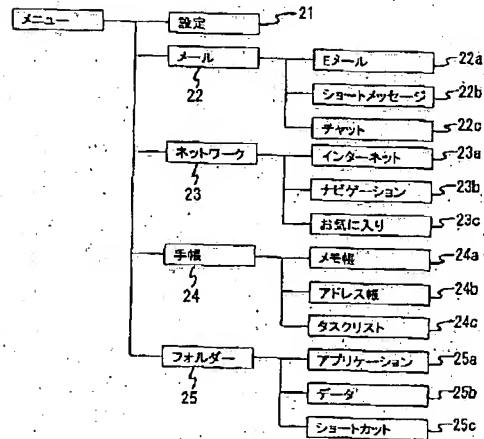
【図1】

図 1



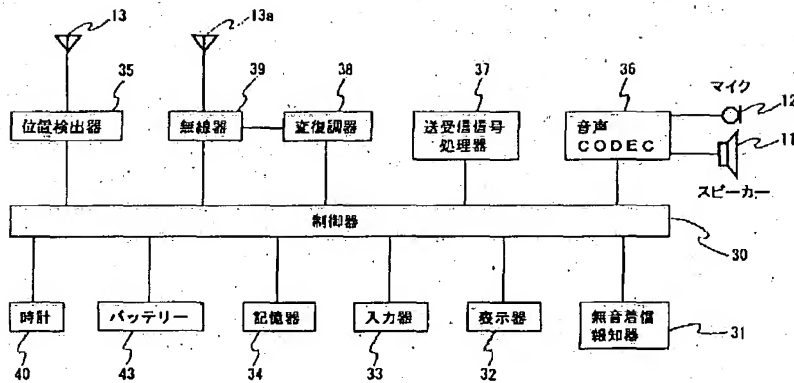
【図2】

図 2



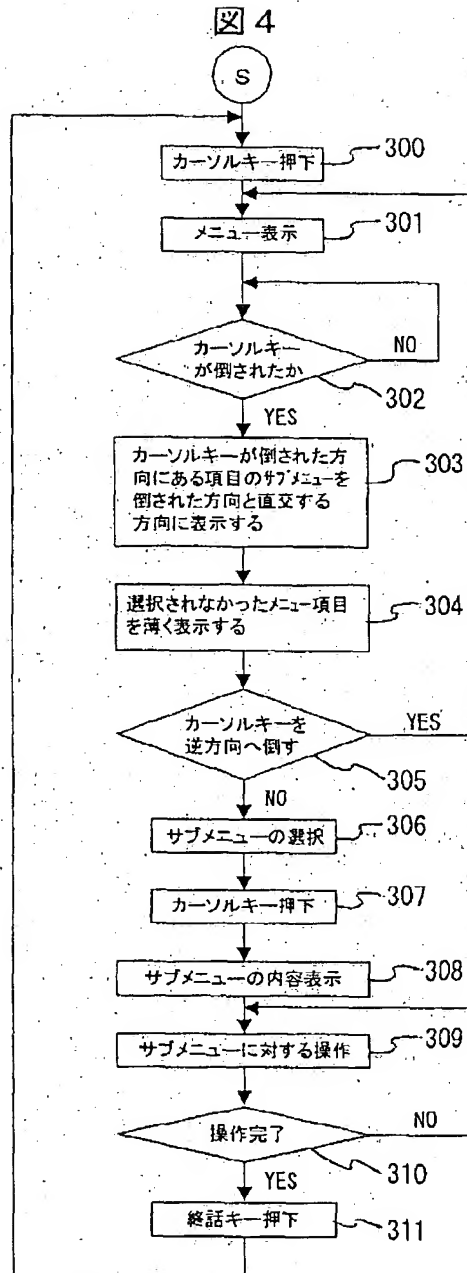
【図3】

図 3

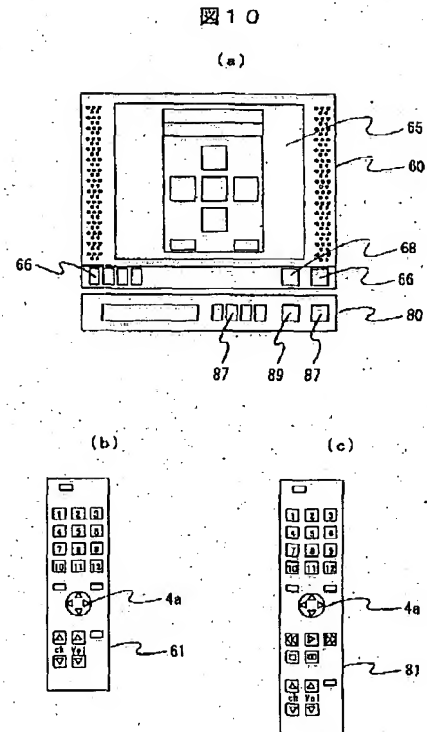




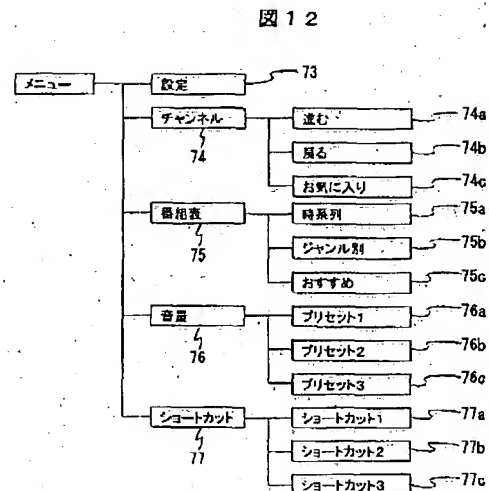
【図4】



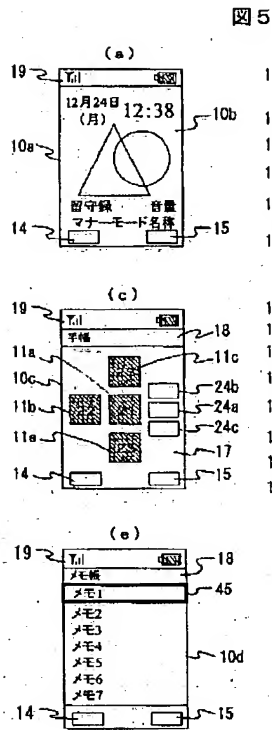
【図10】



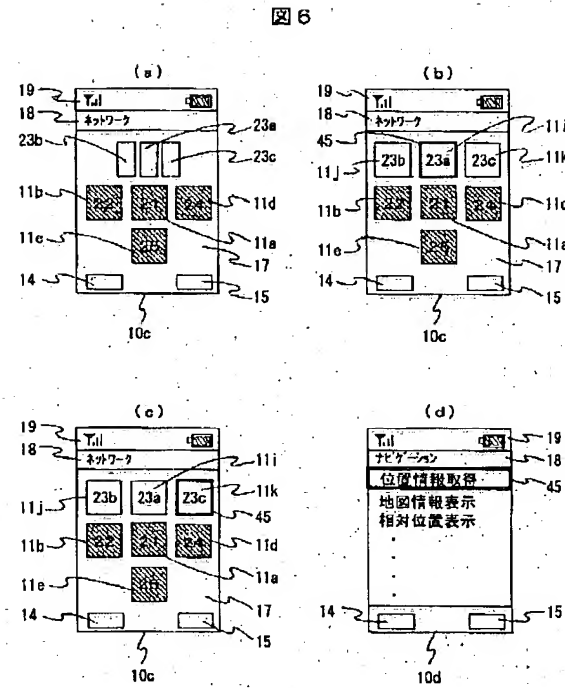
【図12】



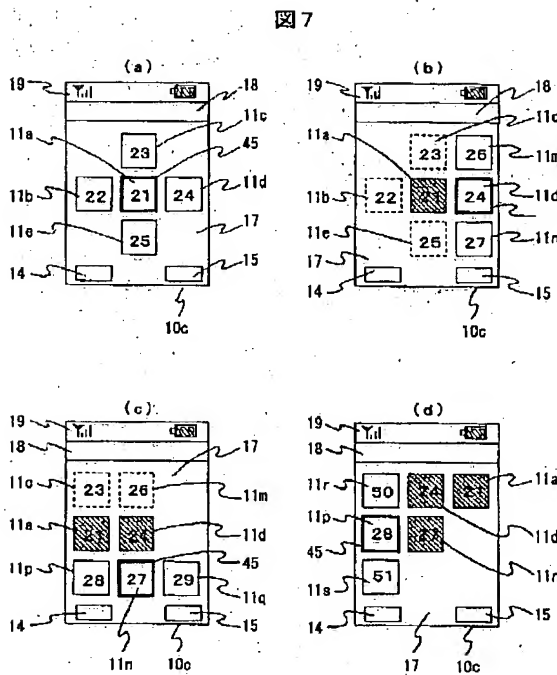
【図5】



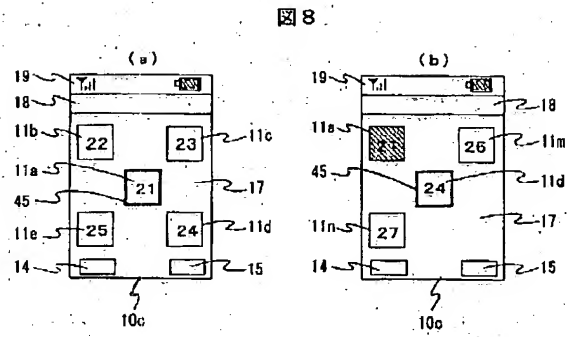
【図6】



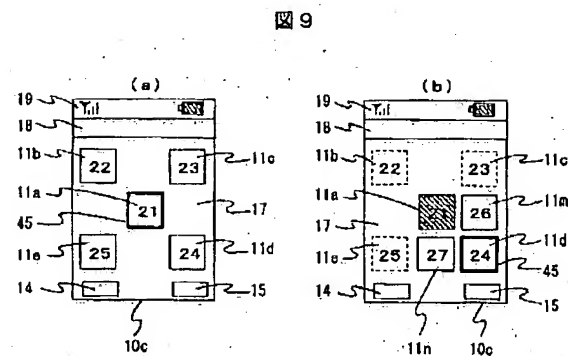
【図7】



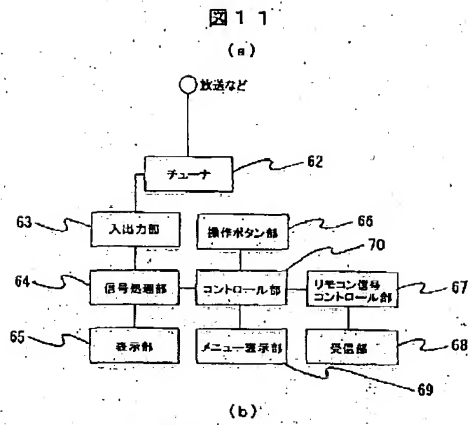
【図8】



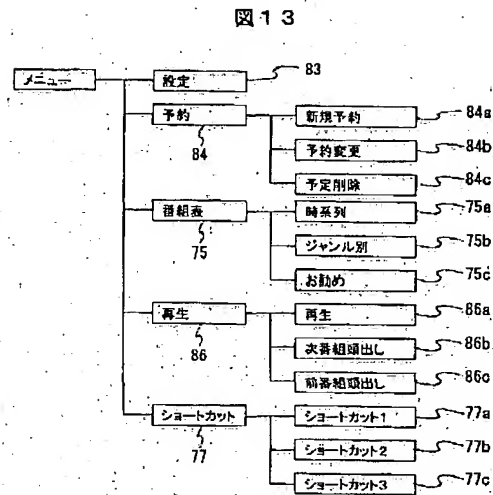
【図9】



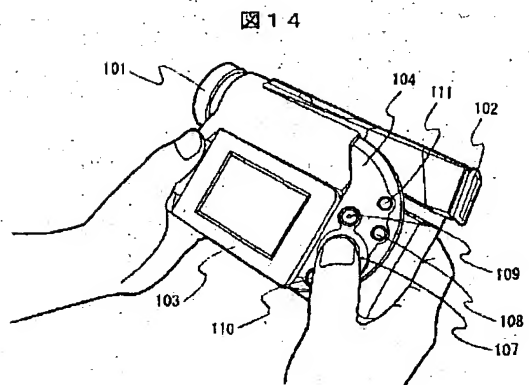
【図11】



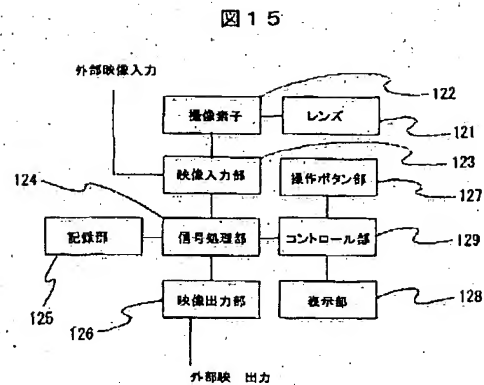
【図13】



【図14】

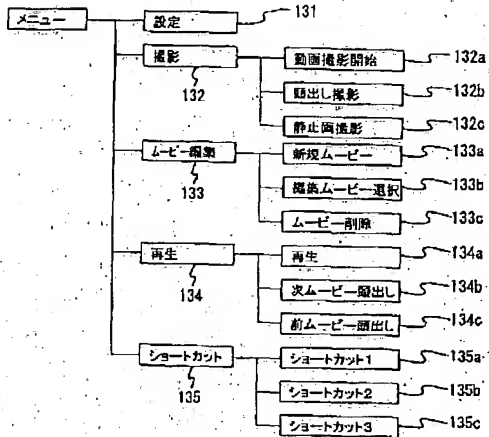


【図15】



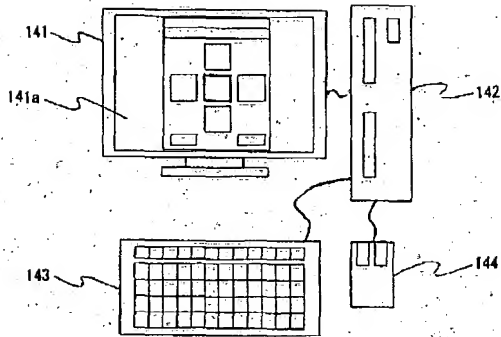
【図16】

図 16



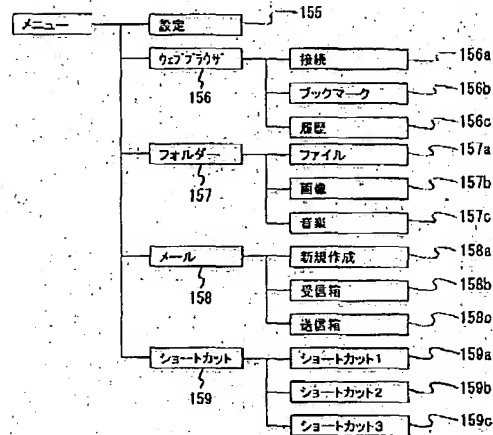
【図17】

図 17



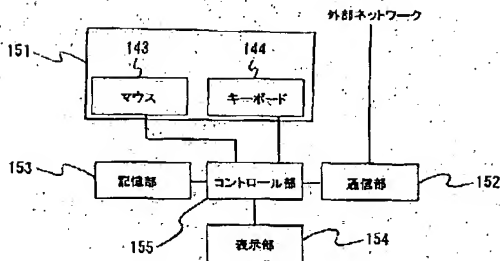
【図19】

図 19



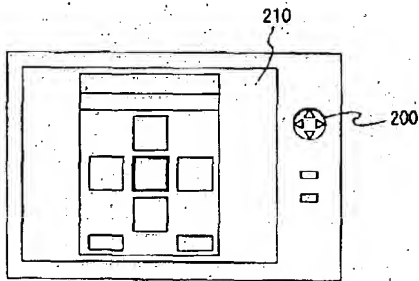
【図18】

図 18



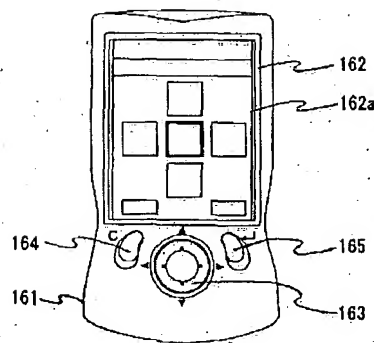
【図20】

図 20



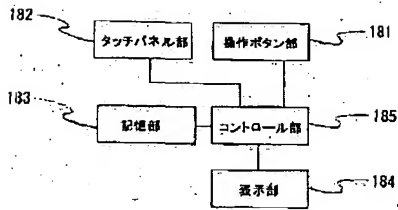
【図21】

図 2 1



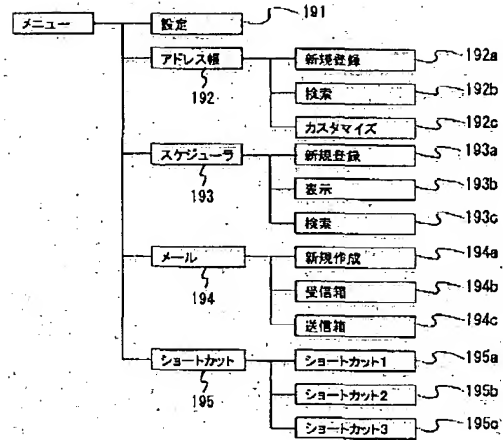
【図22】

図 22



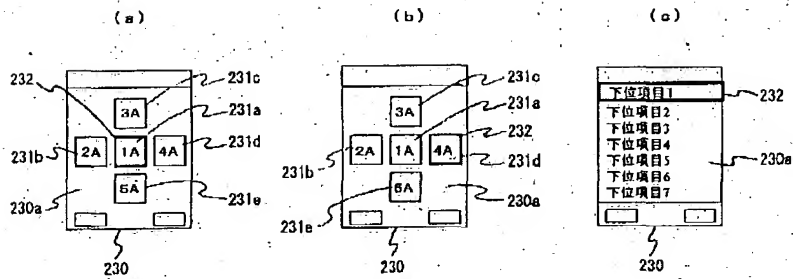
【図23】

図 23



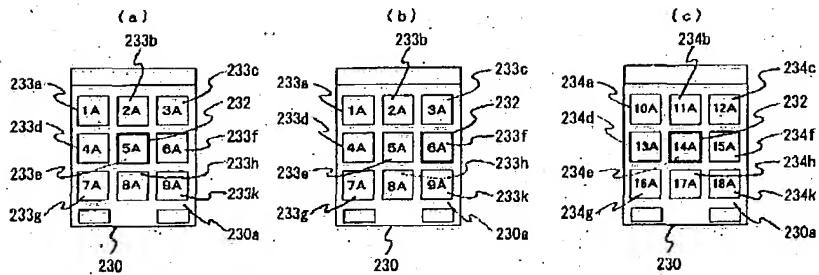
【図24】

図 24



【図25】

図 25





フロントページの続き

(51)Int. Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	コード (参考)
H 0 4 N	5/445	H 0 4 N	5/445 Z

(72)発明者 針谷 郁裕  
茨城県ひたちなか市稲田1410番地 株式会  
社日立製作所デジタルメディア製品事業部  
内

(72)発明者 吉田 順一  
神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地 株  
式会社日立画像情報システム内

Fターム(参考) 5C022 AC31 AC79  
5C025 AA23 AA29 BA27 BA30 CA09  
CB10 DA08 DA10  
5E501 AA02 AA04 AA20 AB03 BA03  
BA05 CB02 EA05 EA11 EB05  
FA04 FA05 FA22 FB04 FB29  
FB43  
5K027 AA11 BB02